

令和6年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)		未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。		評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。	
本年度の重点目標		資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進 「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」			評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する	
教務部	学校の重点目標	各部の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期 評価 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)		学校関係者評価及び意見 評価 コメント	
	1 資質能力の育成	(1) 生徒の学力と関心意欲の向上 (2) 校務の整理とICT(校務支援システム、ミライム等)の有効活用	(1) ①学校評価の数値向上 (2) ①資料の電子化、ペーパーレス化を推進する。 ②データの整理・共有により、業務の効率化を図る。 ③早期着手により時間的余裕をもち、ミス等がないようチェック機能を高める。	(1) ①シラバスを活用した学習の構えづくりと意欲を喚起する指導の実践 ②基礎学力の定着と応用力の深化のための授業の工夫と課題の精選 ③バランスのとれた授業時数の確保 ④観点別評価を有効活用し、学習のPDCAサイクルを強化する。 (2) ①会議資料等を電子化し、一人一台端末で全職員が共有する方向へと移行していく。 ②出欠統計や成績処理等を正確に行うための入力の徹底と校務支援システムの運用(図書情報部との連携) ③指導要録等、3年間を見据えた校務処理の在り方の検討と実践(進路支援部との連携)	3	(1) ①②○各教科・科目でICT等を活用しながら授業改善や生徒の学力向上に取り組んでいた。 ③●定期考査間の曜日バランスは確保するように努めているが、学年ごとに開催される行事があるなど、バランスが取りづらい状況である。 ④○●学習評価(観点別評価)については各教科・科目で工夫しながら取り組んでいた。 <u>その情報を教科代表者会等で共有し、改善に役立てていただきたい。</u> (2) ①○運営委員会・教科代表者会は可能な限り隔週開催にしている。職員会議も含め会議資料は基本的にGoogle Classroomを利用してPDFで共有している。 ②○「百問繚乱」の導入により、採点業務の負担は軽減されている。成績処理については、窮屈な日程でお願いしているが、ミライムで早めの連絡を行い、期日通りの処理ができています。 ③○指導要録については調査書とのつながりも考慮しながら、作成依頼を早めに行い、余裕をもって作成とチェックができるようにお願いしている。	3	○学校経営方針・本年度の重点目標に則り、職員・生徒の立場を考慮された、効率的な教務の在り方に努められると感じました。 ※新学習指導要領に基づく学習評価の在り方については、課題の改善に向けての取組を期待します。
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 進路実現の視点に立ったカリキュラムの効果的運用と検証 (2) 学校行事の検討と円滑な運営	(1) ①令和7年度入学生教育課程表完成 ②進路実績向上へとつなげる。 (2) ①行事等の計画立案および周知徹底の流れ(各分掌→運営委員会→職員会議・職員全体)をスムーズにする。 ②参加者が意義・目的等を認識して参加できるような行事の運営に努め、生徒の自走へとつなげていく。	(1) ①カリキュラムの運用の充実と検証 ②進路実現のために効果的かつ効率的な学級編成・授業クラス編成の検討・導入 ③教育課程説明会の実施によるカリキュラムの周知徹底と教育課程登録の的確な指導 ④新学習指導要領における学習評価の的確な運用 (2) ①月行事予定の早期の検討・作成と配付 ②他の分掌との連携・協力による学校行事の運営	3	(1) ①○各教科・科目の協力を得て、教育課程の見直しを行うことができた。 ②○学級編成については、学年や進路支援部と連携を図りながら、適正な編成が行われるように留意していきたい。 ③○各学年・各教科との連携により「教育課程説明会→面談→仮登録→本登録」をスムーズに実施できた。 ④● <u>新学習指導要領における学習評価については3年目が終わろうとしている。課題を共有しながら、次年度の運用に役立てたい。</u> (2) ①○各行事については早めに実施計画案を提示してもらい、各部、学年の協力を得ながら運用できている。	3	○教育課程の見直し・学級編成の在り方・各分掌部・学年との連携に努め、細部にわたる工夫・改善がなされていると感じます。課題把握と改善の取組が見られました。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)広報委員会の活動の充実。 (2)オープンスクール、学校説明会等の充実。	(1)年間を通した委員会活動のノウハウの確立。生徒の目線を生かしたPR資料の作成。 (2)実行委員を主体としたオープンスクールの企画・運営 運営に関わった生徒の満足度が向上する。	(1)担当職員と生徒の綿密な連携。 (2)運営を生徒主体にすることで、運営に関わる生徒が多様性を尊重し、感性や創造力を伸ばし、西高プライドを醸成する場面とする。	3	(1)○担当職員と広報委員との連携がとれ、活動が活発になった (2)○オープンスクールは第1回7月、第2回10月ともに終了。生徒主体の運営で参加者、運営側の評価は共に概ね良好。その他の学校説明会ではこれまで作成したPR動画等でアピールすることができた。 ●2回目の内容は1回目とほぼ同じことから参加者が少なかった。別に部活動体験も含めた学校公開日の設定を検討したい	3	○生徒主体の広報活動への熱意が感じられます。 ●公立中の進路選択は8月中、特に自己推薦制度の導入後は10月には推薦の準備を始めるので、例年、本校の10月オープンスクールは中学校側が重要視していないのが現状です。反省にもあるように再考をお願いしたいと思います。
広報部	3 ふれあいと命の教育の推進	(1)オープンスクール、学校説明会等の充実 (2)本校の魅力の発信	(1) ①参加した児童・生徒・保護者の満足度が向上する。 ②普通科の高校入試倍率1.06倍。 (2) ①業者を活用し、魅力あふれる資料を作成できたか。 ②鮮度の高い情報、安全・安心な学校生活のイメージを発信できたか。 ③本校の実績を発信するとともに、受験生の動向やニーズをリサーチできたか。	(1) ①生徒主体の運営を見せることで、生き生きとした本校生徒の姿を発信する。 (2) ①学校紹介資料(パンフレット、ポスター、広報誌など)の作成 ②ホームページ、Facebook、YouTube、Instagramによる最新情報発信 ③小学校・中学校・学習塾との連携	3	(1)○①2回とも終了し、参加児童、生徒、保護者の多くから好評を得ている。今後第2回目の時期や内容を要検討 ②●現時点での志望数は苦戦しているが今後の変化に期待 (2)①○パンフレット、ポスターについては校正を重ね、中学、高校とも完成し、各方面に配布 ②○ホームページ、Facebook、Instagramについては更新を随時行い、最新情報を発信した。特に4月から本格配信しているInstagramについてはSSHの活用もあり、高評価を得ている。 ③○学習塾、 <u>中学校説明会を実施し意見交換会では貴重な情報を入手することができ、事後のアンケートでも概ね満足した結果が得られた。</u>	3	○どうしても一方的に進みがちな広報活動を、中学校や塾、保護者の意見や情報を取り入れることによって、受験生が必要とする後方に改善・向上していると感じました。

令和6年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)		未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。	
本年度の重点目標		資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進 「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART（感性・芸術・美意識）の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」			評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する	
生徒支援部			1・2学期		学校関係者評価及び意見	
	学校の重点目標	各部の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	評価	コメント
					成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	
	1 資質能力の育成	「考え抜く力」を養う。 (1) 生徒会や委員会活動を通じて、主体性や自己管理能力を高める。 (2) 校則や容儀関係のあり方を検討し、生徒の自己管理能力を育成する。	(1) (2) ①生徒総会や委員会活動で生徒が主体的に議論し、多様な考えを理解した上で、集団としての考えを形成しようとしている。 ②携帯・スマホ持ち込み規定違反者数の減少。 ③SNS関連のトラブル減少。 ④地域からの苦情の減少。	(1) ①学校のあり方について生徒会等で議論し、生徒の自治意識を高める。 ②スマホ持ち込み規定について生徒会で議論する。 (2) ①校則運用の実際について生徒にも議論させ、西高プライドを醸成する。 ②容儀関係のあり方について生徒会で議論を深め、容儀指導を徹底できる体制を追求する。 ③新制服に対応した校則について協議を継続する。	3	(1)○①②新生徒会において話し合いが進んでいる。●生徒会の活動を定期的に発信する必要がある。 (2)○①②③一学期同様、各種委員会において話し合いが進んだ。目に見える成果は難しいが、今後も地道に声掛けを行う。●職員間で統一した指導が確立できなかった。今後検討していきたい。
	2 豊かな人間性の醸成	「共感する力」を養う。 (1) 感性や創造力を伸ばす学校行事や特別活動を推進する。 (2) 部活動やボランティア活動等を推進する。 (3) 「いじめ」の起きない環境作りを目指す。	(1) 生徒の学校満足度評価結果の向上。 (2) 部活動加入率の増加と積極的なボランティア活動参加者数の増加。	(1) 朝陽祭をはじめとする各種学校行事のあり方を検討する。 (2) ①6年間を見据えた学校行事及び部活動の中・高連携を実践する。 ②部顧問の適正配置と部活動指導員等の積極的導入を行い、負担軽減のための様々な制度を検討する。	3	(1)○有意義な朝陽祭を実施することができた。職員アンケートについても概ね良好であった。終了後、新しい実行委員によって来年度の計画が進んでいる。●体育の部の時期の問題や、行事の精選を行う必要がある。 (2)○新人大会や高校総合文化祭等において、各部の活躍が見られた。●派遣基準の見直しが必要である。
	3 ふれあいと命の教育の推進	「尊重する力」を養う。 (1) 生命・人権・多様性を尊重し、自他肯定感を育成する。 (2) 道徳教育を推進し、いじめの未然防止を推進する。 (3) 交通安全指導を徹底し、マナー意識を向上させる。	(1) 誰も見ていなくても自分や他者の命を守る行動をとる生徒の増加。 (2) いじめアンケート結果の改善。 (3) 交通事故件数の減少。	(1) ①教師自身が高い生命・人権・多様性尊重の意識を持った言動を徹底し、模範を示す。 ②生命尊重に関する様々な講話、講演会等を実施する。 (2) ①LHR等で人権教育を充実させ、教育相談アンケートといじめアンケートの実施内容を検討、定期的・継続的に実施する。 (3) ①交通マナーに関する様々な指導やPTAと連携した交通指導を実施する。	3	(1)○①②「薬物乱用防止教室」「情報モラル教室」をそれぞれ実施した。今年度は両講演とも専門分野の講師を招き実施した。アンケート結果から意識の向上が伺えた。 (2)○11月にアンケートを実施した。特に大きな問題は見られなかったが、日常の変化に気を付けて見守っていきたい。●いじめ防止について職員研修を行うことができなかった。 (3)○OPTAとともに立ち番指導を行った。ヘルメット着用推進に関する様々な会議に生徒会が参加し、南警察署管内の学校と連携した取り組みを模索した。12月には警察と下校指導を行った。●立ち番指導による交通マナー徹底に限界を感じた。
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 試練を乗り越える逞しい人間力	(1) 不安や悩みのない学校を目指した人間関係づくりや生徒のコミュニケーションスキルの向上を目指す。	(1) 統一LHR(ライフスキル)の授業を年2回実施し、望ましい人間関係の構築と上手な話し方や聴き方ができるようなコミュニケーションスキルの向上に努める。	3	(1)○ ○4月に実施した「コミュニケーションスキルの向上」に続き、10月には、「自己理解の促進」を中心課題に据えたライフスキル学習を実施した。「自分を知る新しい視点を得ることができた。」「実生活に生かしていきたい。」など、肯定的な捉え方をする生徒が多く、意義のある取組となった。

令和6年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校				評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。		評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。	
	本年度の重点目標	資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART（感性・芸術・美意識）の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」		評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する	
	学校の重点目標	各部の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期		学校関係者評価及び意見	
					評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり) ●課題あり)	評価	コメント
教育相談部	3 ふれあいと命の教育の推進	(1) 生命・人権尊重・危機対応能力の育成 (2) 自己肯定感の育成 (3) 家庭・地域との連携 (4) 生涯を支える健康と活力の育成	(1) 「自分のいのち」を守ると「子どもの人権」を守る『人権教育』を推進する。 (2) 不安や悩みを抱えず、自己肯定感を高めるようなきめ細かな教育相談体制を組織する。 (3) 生徒・保護者との積極的なかかわりや、外部の専門機関とも積極的に連携した特別支援体制を充実する。 (4) 学びの多様化や配慮を必要とする生徒に対するきめ細かな学習環境を提供する。	(1) 生徒自身の人権を守る教育に努める。 (2) 学年会や教育相談委員会、ケース会、教育相談アンケート等で情報を共有し、問題の深刻化を防ぐ。 (3) 悩みを抱えた生徒・保護者とスクールカウンセラーやチャーターネーター等の外部の専門機関を積極的に繋ぎ、ケース会議を実施する。 (4) 視覚的・聴覚的・人的な刺激に配慮した教室のユニバーサル・デザイン化を考慮した学習環境を提供する。	3	(1) ○7月に「宮崎県いのちを守る週間」を実施し、生徒の自他の「いのち」はかけがえのないものであることや「いのち」を守り、大切にすることの意義について考えることができた。 (2)(3) ○学年会に出会し、クラス担任からの報告を受け、部内での情報共有を図った。 ○相談室登校の生徒や長期欠席傾向にある生徒については、クラス担任や学年主任だけでなく、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの専門の職員と協力し、家庭訪問や面談を行う等積極的な関わりを持った。 ○スクールカウンセラー担当者が、月1〜2回のスクールカウンセラー来校日に、時間を調整しカウンセリングを実施した。 ○通級担当者やコーディネーターが、関係部署と綿密な連携をとり、悩みを抱えた生徒・保護者とのケース会議を実施し、良い形を模索しながら生徒を支援した。 (4) ●視覚的・聴覚的・人的な刺激に配慮した教室のユニバーサル・デザイン化を考慮した学習環境を提供がまだ十分ではない。	4	○相談室での活動にとどまらず、生徒の生活や活動にかかわる人や場所など多角的なカウンセリングで生徒一人一人を支えておられることが感じられました。 ●中学校職員として以前から感じていることは、高校入学後に不登校や別室登校になった生徒について出身中学校とも連携を取っていただけないかということです。手遅れになる前に協力できることもあるのではないかと機会があるたびに要望してきました。私立高の場合は生徒の状況の報告が随時ありますので、県立でもご検討ください。
環境保健部	1 資質能力の育成 3 ふれあいと命の教育の推進	(1) 命を守るための自己管理能力、行動力を育てるための保健教育の充実 (2) 安全、防災教育の充実と対策の強化	(1) ① 自己管理能力の育成を図るために必要な知識やスキルを習得する。 ② 自らの健康状態に関心を持ち感染症対策を確実に行う。 (2) ① 危機管理意識を高め、自ら主体的に行動できる。 ② 安全点検を実施し使用状況の把握をする。 ③ 登下校時の緊急避難場所を理解する。	(1) ① 性に関する学習、健康講話等を実施する。 ② 生徒の心身両面のさまざまな訴えに積極的傾聴を行い学校生活を支援する。 ③ 保健の授業で救急救命・AED使用についての指導を行う。 ④ 感染症の流行状況に応じた正確な情報発信を行い、適切な予防対策を講じる。 ⑤ 担任、教育相談部、家庭と連携を図る。 ⑥ 保健委員会活動の活性化を図り、学校保健活動を推進する。 (2) ① 防災学習・避難訓練を実施する。 ② 年3回(6月・10月・1月)耕心強化週間で安全点検を実施する。 ③ 災害時用個人カードの作成依頼、保管を行う。	3	○中学1年生の性に関する学習では、参観日に合わせて保護者も参加し、講話を実施することができた。3学期には中学3年生向けの講話を予定しており、生徒の実態に即した内容を検討していきたい。(中) ○高校1年生の性に関する学習では、「助産師が伝える命の大切さ」という演題で、古賀総合病院産婦人科師長田中優子氏による講話を実施した。性の多様性や人との距離感、自分らしさを大切にすることなど、高校1年生の実態に即した内容であった。講師の都合で日程を変更し11月の実施となったが、実施時期としては良かったと思う。 ○感染症の流行が心配な時期に入るため、11月下旬から各教室に手指消毒液を設置した。また、教室での換気を効率よく行うため、サーキュレーターの正しい使用法について保健委員会で学習会を行い、積極的な使用を促した。今後は、昼食時の放送で感染症予防の啓発を行うなど、生徒から積極的に発信させる取組を行ってきたい。 ○学校外での行動や家庭での生活において心配のある生徒が複数おり、担任や学年、教育相談部、SCやSSWらと情報を共有しながらそれぞれの立場で支援していくことの重要性を強く感じた2学期であった。 ○避難訓練では、各授業場所から避難経路の確認を行った。 ○安全点検を実施し校内の危険個所の確認を行った。	4	○中・高6年間、成長期の生徒の心身の健康を細やかに観察され、各講座などを実施、自他の命や人権を守るための啓発活動にも努めておられると感じました。 ○「耕心」という名前から、西高の清掃活動に関心をもっている人が多くいます。視察や地域へのオープン参観などで常時公開するようにするのも向上につながるのではないかと考えます。
		2 豊かな人間性の醸成	(1) ① 仲間とともに協力し美化活動を行い公共物を大切にすること。 ② ゴミを拾い、身の回りの整理整頓ができる。 ③ 自ら進んで耕心を行う。	(1) ① 美化委員会活動の活性化を図り、学校内外の美化活動を推進する。 ② 耕心オリエンテーションを実施し、自ら清掃や整理整頓を無言で行う生徒を育成する。 ③ 耕心強化週間を設定し、職員生徒共に美化意識の向上を図る。	3	○朝陽祭では、美化委員が校内や館内の清掃を積極的に行うことができた。 ○1学期に比べると、ごみの分別ができていないクラスが少なくなった。 ○耕心強化週間では美化委員会の組織的な活動で効果的な指導ができた。	4	○「耕心」という名前から、西高の清掃活動に関心をもつ人も多いようです。視察や地域のオープン参観などでの常時公開などの取組なども、生徒の意識高揚や誇りにつながるかもしれません。

令和6年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。				
	本年度の重点目標	資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」	評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する				
進路支援部	学校の重点目標	各部の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期		学校関係者評価及び意見	
					評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	評価	コメント
	1 資質能力の育成	(1)進路意識の啓発を図り、生徒の能力や希望に応じた進路目標を設定させる。 (2)進路目標の実現に向けて基礎学力の定着に努め、国公立大学進学を保障する学力を習得させる。 (3)より高い進路目標の実現に向けて、各学年と連携して一貫性・継続性のある指導ができる体制・システムを構築する。	(1) ①多様な学びを通した進路意識の高揚と、生徒の生活状況や学習状況に応じたアドバイスや激励 (2) ①基礎学力の定着と国公立大学に合格できる学力の強化(現役生・既卒生合計国公立大300名合格への挑戦) (3) ①超難関大、難関大、医学部医学科を目指す生徒の増加と指導態勢の強化(現役生・既卒生合計東大2けた、九大50名、難関10大学60名合格への挑戦)	(1) ①進路講演会、大学等の出張講座等の実施 ②年間2回の生徒面談(担任:2回)の実施 (2) ①平常課外、長期休業中講座の計画的な実施 ②「西高・西附チャレンジテスト」の実施 ③学力検討会・進路検討会の効果的な運用 (3) ①超難関大、難関大、医学部医学科を目指す生徒の学習指導充実のための学力検討会・進路検討会・教科指導研究会の実施 ②全職員がいち早く生徒の学習現況を把握できるような成績データの作成と共有	3	(1)①〇6月に高3、7月に高1・2対象の進路講演会を実施できた。1学期にふさわしい講演会の内容であった。 ●気候変動の影響により、熱中症のリスクを考える必要がでてきた。6月はまだ心配はなかったが、7月は高温となり高1のみ急遽オンラインに変更した。次年度への検討事項となった。 ②〇4月・10月の担任面談を予定通り実施できた。 (2)①OPTA総会で議決後、予定通り課外を実施できた。希望者の割合も昨年度とほぼ変わらなかった。高校3年生の課外希望者が2年次より増加した。●生徒、職員の登校時間の厳守の呼びかけの徹底。●安易な課外欠席を減らす呼びかけを徹底。 ②〇第1回西高チャレンジテストを予定通り実施できた。テスト実施について大きなトラブルはなかった。●問題作成を通して教科指導力の向上に繋げていきたい。●10月実施の西チャレは定期考査との間隔が短いため、十分なやり直しができない。9月実施に向けた検討を行う。 ③〇高3対象の第1回進路検討会を予定通り実施できた。学校推薦型選抜、総合型選抜について目線合わせをすることができた。 (3)①〇超難関大学を目指す生徒の指導は朝課外、夕課外を活用して実施できた。 ②〇西高チャレンジテスト、各模擬試験のデータを共有することができた。	4	〇一人一人の生徒の資質向上や目標設定に努めるとともに、よりよい学習習慣の定着を図るための細やかな指導がなされていると感じます。
2 豊かな人間性の醸成	(1)生徒一人ひとりが「未知の我を求めて」主体的に自分の将来を考え、長期的な展望のある進路選択とその実現ができるよう、個々の生徒を支援し、社会に求められる人材を育成する。	(1) ①多様な学びを知り、将来の進路発見と実現につながるような講座の実施 ②校内外で実施される体験学習への参加者の増加 ③推薦入試(総合型・学校推薦型)に挑戦する生徒の育成と合格者の増加	(1) ①学部・学科講座やYUME講座の実施 ②校外で行われる講演会やセミナー、看護体験などの諸活動の案内と積極的な参加の奨励 ③資格取得の推進 ④Classiや紙媒体のポートフォリオを活用した推薦入試に対応できる生徒の掌握 ⑤全職員で行う小論文・面接・口頭試問等の指導の充実	3	(1)①YUME講座、学部学科講座ともに予定通り実施できた。 ○学部学科講座は業者と連携して行うことで効率的な業務を行うことができた。 ②〇「ふれあい看護体験」、「医療講演会」、「医師体験」などを紹介し、積極的な参加を奨励した。ポータルサイトへ情報をアップロードし、発信し続けた。 ④〇Classiを活用し、進路情報の発信を続けた。 ④〇48期生の合格体験記「一念」を6月に発行することができた。朝読書の時間を活用し、生徒が読む時間を確保した。 ⑤全先生方の協力のもと、推薦入試の小論文・面接・口頭試問の指導を行っている。	4	〇それぞれの生徒が自らの適性や希望を将来につなげていくための取組がなされています。それぞれの講座や体験学習の事後の感想なども紹介していただくとよいかと思います。	

令和6年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校				評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。			
	本年度の重点目標	資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART（感性・芸術・美意識）の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」	評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		
理数科理文部	学校の重点目標	各部の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期 評価 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)		学校関係者評価及び意見 評価 コメント	
	1 資質能力の育成	(1) 豊かな感性と高い知的探究心の醸成 (2) 高い学力の養成と進路志望の実現	(1) ①各種コンテスト、オリンピック、大学やSSH等のプログラムに複数名入賞する。 ②大学見学・入試研修会へ積極的に参加する。 ③医師体験等の講座へ積極的に参加する。 (2) ①1年次ハイレベル模試で偏差値60以上60名以上 ②2年次ハイレベル模試で偏差値60以上45名以上 ③進研模試GTZのA2以下解消 ④東大京大の超難関大学への合格20名以上 ⑤難関10大学への合格60名以上 ⑥国公立大学医学部医学科への合格30名以上	(1) ①関係部署と連携し、生徒へのタイムリーな案内と参加を奨励する。 ②面談を積極的・定期的に行い、難関校や医学科への進学意欲を高める。 (2) ①模試毎のデータ分析を行い、迅速な共有とフィードバックを行う。 ②教科指導研修会など指導力向上のための研修を充実させる。 ③中高指導研究会、中高情報交換会を実施し、生徒理解を深め、指導を充実させる。	3	(1) ①進路支援部と連携し、難関大や医学科等の情報を提供できた。 ②二者面談および三者面談を行い、現状の課題の確認や目標設定を行い、意欲を高められた。 (2) ①新課程によって昨年度までと変更点が多い模試であるが、データ分析をしっかりと行えた。 ②理数科理文クラス教科指導研究会を行った。また、各予備校の研修会や研究会の案内を行い、指導力向上のための情報を提供できた。 ③中高指導研究会を実施し、6年間の指導計画を作成し、共通理解を深め、今後の課題を再確認できた。	4	○細やかな進路指導と目標達成への学習指導・生活指導・職員間の研修などの取り組みが感じられます。
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 規範意識の醸成と生きる力の育成	(1) ①教師主導でなく、生徒が主体性をもって活動 ②生徒会や学校行事へ積極的に参加 ③耕心や日々の生活で自ら気付き行動	(1) ①生徒が自ら考え、行動できる自立心を育成する。 ②耕心・行事への率先した取り組みを奨励する。 ③部活動、生徒会活動への積極的参加を奨励する。 ④生徒主体の理数科生集会を実施する。 ⑤中3生の理数科生集会、理数科理文クラス講演会へ参加。	3	(1) ①④理数科生集会、理文クラス生集会を実施し、3年生の代表者から後輩へのアドバイス、メッセージを送ってもらい、縦のつながりができた。 ⑤理数科理文クラス講演会を実施し、企業人、広告の世界を知り、仕事や生き方に対する視野を広げる貴重な機会となった。	4	○「規範意識の醸成」が重点目標というところに思春期の生徒たちの指導に試行錯誤されるご苦労が感じられます。
	3 ふれあいと命の教育の推進	(1) 多様性を認め、自己肯定感の高揚	(1) ①全生徒が自分の長所・強みを自信をもって答えられる。 ②二者面談・三者面談の充実	(1) ①授業やHRを通じて多角的な視点を養成する。 ②個別に寄り添う姿勢で面談を行う。	3	(1) ①各行事におけるリフレクションシートの活用、終礼でそれぞれの生徒の意見を共有する機会を与えた。 ②多様性を意識し、個に応じた面談や指導を行えた。	4	○学力や成績に左右される日々の中で自分の良さを見失いがちな生徒たちに、自己肯定感と自信をもたせようとする熱意を感じます。

令和6年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。			
	本年度の重点目標	資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」	評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する			
	学校の重点目標	各部の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	学校関係者評価及び意見	
	評価					評価	コメント
渉外厚生部	1 資質能力の育成	PTA会員(保護者・職員)が共に研修を深めるための活動の推進	①会員の研修の場を提供し、その企画・運営を支援する。 ②研修の内容を、生徒に還元できるものをめざす。	①研修委員会の研修内容の設定についての意見交換を行い、興味関心が高いものを選択していく。 ②生徒と話題を共有できるような研修の場を設定するとともに、会員相互が楽しくPTA活動に参画できるよう、研修の運営を支えていく。	3 ①第1回研修委員会(6月25日)進路支援部主任の黒田先生より、「受験まで○○○日」というテーマで、新課程入試や大学入試全般(一般選抜/学校推薦型選抜/総合型選抜)、合格を勝ち取るために大切なことについて先生の経験を踏まえてお話いただき、貴重な情報を得る機会となった。 座談会では、48期生の5名の保護者を迎え、座談会を開催。事前に頂いた研修委員の皆様質問を中心に詳しい資料も添えて御講話頂き、受験生の保護者としてやのお話など、大変貴重な時間となりました。事前に頂いたアンケートへの回答以外にも、その場でしか聞けないお話もたくさんして頂き、受験生の保護者としてどう我が子に関わっていいか、皆さん熱心に参加されている様子でした。 ②第2回研修委員会(11月17日)では飛田 洋氏を講師として招聘し、演題「生き残るのは、強いものではない、賢いものでもない、生き残るのは、子どもたち・保護者・職場の仲間から学んだこと」として講演をしていただいた。飛田氏の様々な御経験を元に語られた講演会で、気付きや学びがあり大変参考になったという御意見を多数いただいた。 講演会後のアンケートでは、講演会の時間について、71.1%の方がちょうど良いと答えられました。講演会の内容については、92.2%の方が大変満足、満足と答えられました。	4	○西校PTA活動の水準の高さを感じます。これからも保護者・地域との連携が学校の発展につながっていくと思います。
	2 豊かな人間性の醸成	保護者の理解・協力を得られるよう情報を発信し、連携を深めていく	① 学年PTA・中学校部会PTAの運営を支援し、その充実をはかる。 ②PTA広報委員会によるPTA新聞の誌面充実をはかる。 ③同窓会や各部署との連携を図りながら、本校生としての誇りや所属意識を醸成する。 ④携帯メール通信を活用し、多くの場面で適宜、情報を発信していく。	①各学年PTA・中学部会担当職員を窓口として、情報共有を密に行いながら各種行事を運営する。 ②生徒や関係職員との連携を図りながら、生徒の活躍を幅広く取り上げていく。 ③携帯メール通信への登録者数の増加を図るための呼びかけを丁寧に行う。	3 ①高校は各学年主任、中学校は中学教頭先生に窓口になっていただき、入試制度説明会・教育課程説明会、共通テスト説明会などの運営を円滑に実施することができた。1・2学期の主な高校学年委員会・中学校部会の活動は、入学式役員選出補助(4月10日)、高3共通テスト説明会(9月12日)、高1教育課程説明会(10月7日)、高2教育課程説明会(10月8日)の運営。各学年、中学校で役割を分担していただき、駐車場誘導や受付業務を行っていた。 ②PTA広報誌『いて、ふ』105号(1学期)発行済み、105号(2学期)も順調に編集が進んでいる。内容的にも可能な限りタイムリーに本校生徒の活躍を取り上げる方向で進めている。完成までに行う編集会議の回数については広報委員長さんのリーダーシップのもと可能な限り削減の方向で動いており、新たな活動の在り方を模索している。 ③携帯メール通信「マ・メール」への登録者数は1,428名(12月9日現在)登録戸数の調査と登録のお願いについては、担任副担任の先生方に依頼をお願いした。未登録の家庭には、学級担任の先生方に呼びかけを行っていただき、緊急時の連絡手段として活用していきたい。今後も登録の問い合わせについては、マ・メール担当を	4	○保護者や地域の学校への効果的な情報発信がなされており、その中でPTA活動の充実も皆の知るところとなっているようです。
	3 ふれあいと命の教育の推進	生徒が学校生活全般において安心・安全に過ごすことにつながるPTA活動の推進	①PTAによる登下校時の交通見守り活動を行い、交通安全に関する意識の高揚に努める。 ②防災・いじめ防止・スマホ・交通安全等、命の教育に関する内容をテーマとした研修の場を設定する。	①交通見守り活動の意義・時期設定・時間帯留意点等についての意見交換を行い、適切なタイミングと共通理解の下に活動を実施する。 ②命の教育に関する内容を精選し、テーマにふさわしい企画を考え、講師の選出を行う。	3 ①4月の交通見守り活動については昨年度の中学1年生(現中学2年生保護者)・高校1年生(現高校2年生保護者)の保護者の方々に実施していただいた。9月は中学3年生と高校3年生の保護者に実施していただいた。子供たちの朝の自転車交通マナーやと保護者送迎車両の様子を確認していただいた。渉外部の担当職員と各学年委員長・副委員長が中心となって実施時期の調整と活動に必要な道具の準備を行い、円滑な運営ができるよう補助していただいた。生徒の登校状況に応じて活動時間や活動場所を臨機応変に変更するなどの工夫も行われている。事故の発生状況に応じて、PTAとして保護者に向けて子供たちの命を守るためにも交通安全に関する呼びかけをマ・メールや文書で行っていききたい。 ②来年度の研修委員会の研修内容選定に向けて、研修委員長の押川さんと堀川さんと協議のうえ、引き続き命の教育に関する研修の実施に向けて早めの調整を行っていききたい。	4	○すばらしい協力体制のもとに生徒たちの安全がまもられていてと感じます。
SSH推進部	1 資質能力の育成	(1) 生徒の主体的な探究活動を目指す。 (2) 「未来イノベーションを牽引する人材の育成」を目指し、批判的思考力等の資質・能力を形成的に伸ばす。	①各学年PTA・中学部会担当職員を窓口として、情報共有を密に行いながら各種行事を運営する。 ②生徒や関係職員との連携を図りながら、生徒の活躍を幅広く取り上げていく。 ③携帯メール通信への登録者数の増加を図るための呼びかけを丁寧に行う。	(1) SSHのプログラムを遂行するために、組織横断的に編成されたSSH推進委員会を通じて分掌間の連携を深める。各学年会の理解と協力を得るために校内研修や情報共有の機会を増やす。「宮西型STEAMプログラム」を実践し、探究の質を高める取組を継続する。また、MSEC参加を推進するとともにポスターセッション発表会に校外からの参加を広く呼びかける。 (2) 批判的思考力などの資質・能力が身についたかをルーブリック評価表等で評価し、客観的に生徒の変容をみるとともに、それら資質・能力を形成的に育成する。	2 学校全体への連絡は、学年会と学年職朝で行っている。依然として情報発信は直前であることが多いので改善を目指したい。中1、中3が青島及び種子島・屋久島研修を行い、それぞれの場所ですべて「仮説を立て・スペシャリストの話を聞き・考えをまとめ・発表する」という流れで進めた。司書の先生に選書や調べ方について協力していただき充実した行事にできた。MSECに41名、JSSFに1名参加した。Glocal Academy主催の国際シンポジウムに4名参加予定。ルーブリック評価表とリンクした形成的パフォーマンス評価の2学期集計がまだであるので資質能力の育成の評価はできない。	4 4	○年度を追うごとに「SSH」の充実とその成果が表れてきているのではないのでしょうか。縦の糸と横の糸がしっかり交差して、情報の共通理解、協力体制の中での実施、学習活動に対する総括がなされていおるように感じます。
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 「Art」(感性・芸術・美意識)と「STEM」(理性)を結びつけた探究活動や体験活動をする。 (2) 生徒の協働的思考力を高める。 (3) より創造的な高い目標に挑戦する心を養う。 (4) 幅広い人間関係を構築させる。	(1) 「Art」(感性・芸術・美意識)と「STEM」(理性)を結びつけた体験活動を実施する。 (2) 講座別探究活動、校内ポスターセッション等での相互評価活動を実施する。 (3) MSEC参加等を通じ、自らの探究成果を発信して他校生徒と交流することを推奨する。 (4) 国際交流や他者に科学技術の面白さや課題を伝え、ともに考えるサイエンスコミュニケーション活動等を促進する。	(1) 附属中学校、高等学校とともに観察・実験・巡検等の機会を増やす。また、外部連携を促進する。 (2) 講座別探究活動、ポスターセッションや中間発表で、情報交換できる環境を構築する。 (3) MSEC等の探究成果発表会・科学系オリンピックの参加を促し、主体的に活動できる環境を整える。 (4) 探究成果発表会、国際交流やサイエンスコミュニケーション活動への参加がもつ意義と、それらが自身の将来をより一層充実させる契機となりえることを理解させる。	3 きみろんⅡ・Expt.の中間発表では質疑応答とGoodJobカードのやり取りを行う中で他者からの視点を取り入れてブラッシュアップできた。協働的思考力の育成の場でもある。しかしながら実験や観察が十分でない探究も見受けられる。MSECに41名が参加し、探究成果を発表した。本年度は本校から初めて英語発表部門に参加し国際的な視野の広がりを感じることができた。地学講座を全5回実施し、サイエンスカフェを2回実施することができ、縦のネットワークを構築する一歩を踏み出した。科学系探究活動では、きみろんExpt.の1作品を含む8作品が九州大会出場を果たしている。科学の甲子園14連覇を果たした。	4	○探究の活動を個人にとどめず、将来につながるチームワーク力の育成をされていることに関心をもちました。
	3 ふれあいと命の教育の推進	(1) 持続可能な社会の実現(SDGs)に自らの探究成果を活用する視点をもたせる。 (2) 多種多様な価値観や文化の違いにふれる。 (3) SSH事業における研究開発の成果を校外に発信する。	(1) 持続可能な社会の実現(SDGs)に自らの探究成果を活用する視点をもたせる。 (2) KVISからの交換留学生との交流。 (3) MSEC参加や学校視察の受入れ、ポスターセッション発表会の公開やHP等で発信する。	(1) 個人的視点だけでなく社会的視点をもった探究が行われているかをルーブリック評価に組み込み、評価項目として事前に生徒に示す。 (2) KVISからの交換留学生とできるだけ多くの本校生徒が交流できるよう企画する。 (3) MSEC参加や学校視察受入れ、ホームページ等で自校の取組目を積極的に発信する。	3 評価については、きみろんⅡ・Expt.・Ⅲの形成的パフォーマンス評価の案内を予定通り進めることができている。きみろんⅠは担任の先生に評価者として加わってもらい、より客観性が高まった。KVISの先生や生徒と本校の交流生徒や生徒会、部活動生の交流はどれも細心の準備の上で積極的に交流する姿が見受けられた。事後アンケートからは海外への興味や国際的な交流への意識の高まりを感じた生徒が多く、実りの大きい行事となった。OIST研修の準備も進んでいる。SSH便りやHPの更新も継続し、取り組みの発信を行っている。	4	○高いレベルの取組や成果の他、全体の活動レベルを引き上げる工夫・改善などにも努めておられることが感じられます。

令和6年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。		評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。		
	本年度の重点目標	資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」	評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		
図書情報部	学校の重点目標	各部の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期		学校関係者評価及び意見	
					評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	評価	コメント
	1 資質能力の育成	(1) 学校教育の中核(メディアセンター)として、「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の充実を支える学校図書館の機能強化。 (2) ICT環境の整備を進めるとともに、生徒と教員のICT活用能力の向上及び管理の徹底。	(1) 「各教科の学び」と「探究的な学び」をつなぐ教科横断的な学校図書館の利活用を推進する。 (2) ICT環境を整え、生徒と職員の有効活用の推進及び管理の徹底を図る。	(1) 各教科や「きみろん」の授業計画と連動した図書館の特設コーナーや資料等の充実、STEAMライブラリーの活用促進。 (2) 未来授業研究会におけるICTを活用した授業研究や授業研修等への支援。 (3) 各種コンクール等の情報発信。	3 ○来年度の一人一台端末の入れ・業者選定について、初めての試みであったが、数社へ見積もり依頼したのち、比較検討し、選定することができた。 ○中学部の端末整備を完了させることができた。 ○朝陽祭など行事を配信することが多かったが、担当者を中心にチームワークよく、スムーズに取り組むことができた。 ○きみろん時の資料支援やレファレンス対応が増えた。それに伴い、県立図書館マイラインの利用も増えた。 ○授業支援として、蔵書や単元関連コーナーが充実し、資料支援や情報活用レクチャーを実施することができた。 △GIGAスクールが3年経過したため、次年度より兄弟の端末を利用する家庭も増えることが予想される。オリエンテーションの内容や流れの検討を行っていく必要がある。	4	○教科や総合的な学習活動との連携に、新しい図書館作りへの期待がさらに高まります。	
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 魅力的な図書館づくり (2) 生涯にわたって読書に親しむ態度の育成と情報モラルや社会参画の意識の向上。	(1) 図書委員会の主体的・自治的な読書活動の推進や校内における「心の居場所」の提供を図る。	(1) 生徒の主体的・自治的な読書活動(文化祭「古本市」、LHR「ビブリオバトル」、県立図書館等のイベント参加等)を促す。	3 ○秋の読書週間期間に昼休みの移動図書館を実施し、読書啓発に努めた。 ○OHP(プログ)を活用し、校外へのスチームラボ広報に力を入れた。 ○古本市は図書委員が主体的に取り組み、多くの生徒が来館し、読書に親しむ機会を作ることができた。 ○朝読書が、副担任の先生方の協力のおかげで、全体的によくできた。	4	○新しい図書館の利用の工夫や啓発活動に熱心に取り組んでおられることが感じられ	

令和6年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)		未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。		
本年度の重点目標		資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」			評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する	評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する
事務部	学校の重点目標	各部の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	1・2学期 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)		学校関係者評価及び意見
	3 ふれあいと命の教育の推進			(2) 教育相談部と連携し、通級指導等の支援として、生徒の居場所づくりを図る。	3	○校内ビブリオバトルを実施することができた。また、県大会にも出場し、好成績を残すことができた。	4 ます。
	1 資質能力の育成	(1) 高い進路目標の達成、SSH推進のための予算検討及び執行	各部及び学年、中学校とこまめに連携を図り、効果的な執行のための情報収集を行う。 必要に応じて、事務室内で予算の配分について検討をする。	職員からの要望等によっては、担当のみで対応せず、事務室全体で検討をする。 規模が大きいものについては、学校全体への周知を行う。周知については、ミライムの活用と同時に、職員会等での直接説明を行う。 予算の執行は、生徒のための改善となることを最優先に検討する。	3	○理科教育設備整備事業を利用して人工気象器(40万円程度)を導入した。 ○きろんで使用するため、生物準備室へ実験用ガス配管整備を行った。 ○工事、給与、福利厚生等職員への周知事項はミライムや個別への連絡等でこまめに行っている。 ●エアコンの設置増及び猛暑により電気使用量が増加した。また、コピー用紙等についても前年度より使用枚数が増加しており予算の逼迫が予想される。節電・経費削減をお願いしたい。	4 ○各分掌、学年等の状況・要望等をきちんと掌握され、計画的な予算立てや改善工事等がなされています。 ○職員・生徒への通知や指導もなされています。
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 学校行事や特別活動等の充実、各種活動推進のための予算執行 (2) 交通安全マナー確立のための役割確認	学校行事と特別活動等の充実のための予算執行と環境改善を行う。部活動についても同様に、事務室全体で予算の執行について検討をする。 清掃活動にも積極的に関わり、生徒が活動しやすいようにする。 交通安全マナーについて、事務室へ情報が入ったものは生徒支援部及び管理職へつなぐ。	学校行事等については共通理解を図り、事務室全体で対応できるように努める。 交通マナーについて、苦情の電話はかなりあり、事務室での対応もかなり厳しいが、学校の窓口として丁寧に行う。その後の学校としての改善策の把握にも努める。	2	●体育祭実施のために第一グラウンドの整備を行った。今後の整備については、県教育委員会に要望しているが現段階では未定となっている。 ●2学期に入り交通マナーについての苦情の電話が増加している。生徒指導部や管理職へ電話を転送しても不在のためつながらないことも多い。対応窓口を増やす等対応策を検討してほしい。	4 ○教育環境の計画的な整備に努めておられると感じます。
	3 ふれあいと命の教育の推進	(1) 学習環境の整備、充実	生徒の学習環境について、さらなる整備と充実を図る。またそのための予算執行について、先生方へのこまめな周知に努める。	生徒の学習環境の整備・充実のためには、光熱水費等の節約が必須である。事務室だけでは取り組めない部分があるので、定期的に周知をしていく。 環境整備のための要望など、情報収集をして事務室内で優先度を検討し、取り組む内容について先生方への周知を行う。	3	○校内LANの整備を推進し、未整備だった2部屋へアクセスポイントの整備を行った。これをもって校内の全ての教室へのアクセスポイント整備が完了した。 ○空調が未整備であった第1生物実験室への空調新設を行った。 ○選択教室1への教室用プロジェクター整備を行い、普通教室棟の全ての教室へのプロジェクター整備が完了した。(12月24日設置予定)	4 ○教育環境の計画的な整備に努めておられると感じます。